これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official report by the meeting organizer. Do not quote.

「NAMA ガイドブック - アジアと世界の経験」
傍聴報告

2013 年 11 月 16 日
一般社団法人海外環境協力センター（OECC）

本傍聴報告は、2013 年 11 月 11 日～11 月 23 日にポーランド・ワルシャワで開催された国連気候変動枠組条約第 19 回締約国会議（COP19）において開催されたサイドイベントの傍聴報告です。

- タイトル：NAMA ガイドブック - アジアと世界の経験（Guidebook on NAMA-based experiences in Asia and the World）
- 日時：2013 年 11 月 15 日（金曜日）18:30 - 20:00
- 主催：環境省、一般社団法人海外環境協力センター（OECC）
- 会場：Japan Pavilion（National Stadium, Warsaw）
- プレゼンター（敬称略）：藤野純一（独立行政法人国立環境研究所（NIES））、田村堅太郎（公益財団法人地球環境研究戦略機関（IGES））、Sum Thy（カンボジア環境省）、Benoit Lefevre（World Resources Institute（WRI））、Julie Cerqueira（Center for Clean Air Policy（CCAP））、小野貴子（NIES 温室効果ガスインベントリオフィス（GIO））

■ 概要

本サイドイベントでは、アジア各国の専門家により作成された NAMA ガイドブックのドラフト版が公開された。NAMA ガイドブック公開に当たり、執筆を担当した NIES、IGES、カンボジア環境省、WRI 等より、NAMA ガイドブックの概要、NAMAs 策定のアプローチ、アジア・中南米における NAMAs 策定の経験に関して発表がなされ、意見交換が行われた。

1. 藤野純一（NIES）:「NAMA ガイドブックと日本のイニシアティブ（Introduction of Japan's initiatives and the NAMA Guidebook）」

- NAMA ガイドブックは、日本がアジア各国で実施している NAMAs 策定支援の取組を通して得られた知見の共有を目的として、各国と協働して作成された。ガイドブックには NAMAs の要素や策定のアプローチ、アジアや世界における事例等を掲載している。

2. 田村堅太郎（IGES）:「低炭素成長・持続可能な開発のツールとしての NAMAs（NAMAs as a tool for low carbon societies and sustainable development）」

- 低炭素成長は、開発途上国に対してカーボン・ロックインや経済成長が停滞する「中所得国の罠」を回避する重要な概念である。NAMAs は、持続可能な開発と低炭素成長を結合するためのツールになり得る。NAMAs の策定には 2 つのアプローチがある。1 つ目は長期的に持続可能な開発・低炭素成長の戦略の中に NAMAs を位置付けるトップ

ダウンのアプローチである。2 つ目は短期的に既存の政策や施策を NAMAs として実施するボトムアップのアプローチである。開発途上国は NAMAs、CDM、REDD+を活用して持続可能な開発の広範な目的に対応することができる。NAMAs を一時のイベントとして捉えるのではなく、継続的なツールとして捉えることが重要である。

3. Sum Thy（カンボジア環境省）:「カンボジアの経験から得られた教訓（Lessons learnt from countries practical experiences）」

■ カンボジアは小国であるが、多くの化石燃料を輸入している。エネルギーの約 95%が化石燃料由来であり、約 3%が水力発電、約 2%が他の再生可能エネルギー由来である。カンボジアは GHG 排出削減の義務はないが、UNFCCC の原則に基づいて気候変動対策に取組んでいる。2013 年 10 月 31 日に首相により、カンボジア気候変動戦略計画（CCCSP）が承認された。これは緩和策・適応策を実施するための鍵となる戦略であり、緩和策に関しては、市場メカニズムの活用を推進する計画である。

■ カンボジアは、日本と協力して NAMAs の策定を行っている。農村地域では薪・木炭等の非再生可能バイオマスに依存しているため、昨年、ナショナル・バイオダイジェスター・プログラム（NBP）を対象として、パイロット NAMAs を策定した。今年は運輸交通・エネルギー分野での NAMAs 策定に取組んでいる。また、NBP の UNFCCC へのサブミッションや NAMA ワーキング・グループの公式化に向けた議論を行っている。

4. Benoit Lefevre（WRI）:「中南米における運輸交通分野の NAMA の展望 - メキシコの経験（LAC perspectives on Transport NAMA - WRI's experiences in Mexico）」

■ メキシコでは 2005 年に気候変動対策省間委員会（CICC）が設立され、2012 年にメキシコ気候変動基本法が施行された。これにより首相が変わっても気候変動対策が継続される体制が整っている。WRI はメキシコにおけるエコドライブ推進、公共交通の最適化（ルート改善、車両入替）、都市交通システムの改善（大量輸送交通機関、代替燃料、交通需要管理等）の 3 つの NAMAs に関与している。NAMAs の準備に際して、メキシコの低炭素成長に関する調査を行い、環境配慮、経済益、社会益、国の能力、国家計画との整合性の 5 つの評価基準を設定した。また、シンプルな MRV の方法論を提案した。詳細な MRV はドナーの要求事項に基づいて設計されるべきである。また、大気汚染の改善等、NAMAs によるコベネフィットもあわせて MRV される必要がある。

5. Julie Cerqueira（CCAP）:「NAMAs のシェアドビジョン - 中南米・アジアの経験（A Shared Vision of NAMAs: practical examples from Latin America and Asia」

■ NAMAs の目標を達成するために、4 つの基本原則が考えられる。まず、ホスト国主導であり、GHG 排出削減と持続可能な開発の両方に貢献すること、セクター横断的で国全体にわたり、かつ地域の固有性を考慮していることである。また、NAMAs は排出削

減の取組における課題に対処する政策・資金メカニズムである必要がある。さらに、NAMAs に対する国際的な資金支援は、民間資金を動員する呼び水となるべきである。

■ CCAP はコロンビアにおいて廃棄物分野の NAMAs 策定を支援している。この NAMAs は廃棄物処理手数料の改定、NAMA エクイティ・ファンドの設立、非公式のウェイストピッカーの公式化等の取組等がある。これらにより、リサイクルやコンポスト、RDF（ごみ固形化燃料）等の技術への民間投資を促進している。また、CCAP はインドネシア、パキスタン、フィリピン、ベトナム、タイ等の NAMAs 策定に関与している。

6. 小野貴子（NIES-GIO）:「NAMAs と GHG インベントリの関係 - 第 11 回アジア GHG インベントリワークショップの成果（Relationship between NAMAs and national greenhouse gas inventories - outcomes from the 11thWorkshop on Greenhouse Gas Inventories in Asia）」

■ 2013 年 7 月に日本でアジアの GHG インベントリに関するワークショップを開催した。本ワークショップにおいて、GHG インベントリは各国で NAMAs を策定・実施するための基本的な情報源であること、GHG インベントリの専門家と NAMAs の計画立案者の連携は双方にとって効果的であること等が確認された。

■ 質疑応答

Q. 氏名・所属先不明

農業分野の NAMAs の数は Ecofys の NAMA データベースに登録された NAMAs 全体の約 3%である。CDM、REDD+でも農業分野はカバーできていないと考えるが、どのように考えるか。

A. 田村堅太郎（IGES）:

よい指摘である。開発途上国は NAMAs、CDM、REDD+等の政策ツールを活用して持続可能な開発の広範な目的に対応できると考えるが、農業分野は何れのツールでも十分にカバーできていない。この点は考慮すべきである。

（報告者：OECC　中尾有伸）

――――――――――――――――――――

サイドイベント傍聴報告については以下をご覧ください。

日本語版

http://www.mmechanisms.org/relation/details_oecc_COP19report.html